

筋皮神経, 正中神経

筋皮神経 (N. musculocutaneus)

解剖

腕神経叢の外索から出、上腕の屈筋群を貫き、上腕二頭筋などへ枝を与えたのちに、外側前腕皮神経として前腕橈側の皮膚に分布する。

機能

烏口腕筋は上腕を内転させ、前腕を屈曲させる。
上腕二頭筋は肘で前腕を屈曲させる。また前腕外側の知覚を司る。

臨床

単独麻痺は稀で、脊髄傷害、上腕の骨折などで侵されうる。

正中神経 (N. medianus)

解剖

上腕動脈と共に、上腕の前尺側を上腕二頭筋の尺側縁に沿って走り、下って肘窩に到り、さらに前腕屈側の筋群の間を通り手掌に入る筋枝として手側手根屈筋と深指屈筋(尺側半)を除くすべての前腕屈筋及び外側の手筋を支配する。皮枝は手掌の橈側を支配する。

機能

円回内筋：前腕の回内。

長掌筋：手根で手の屈曲。

浅指屈筋：中指節の屈曲が一次的で、二次的に指基節の屈曲を来す。

深指屈筋 (第2, 3指)：一次的に指末節の屈曲。

長母指屈筋：母指、特に末節の屈曲。

短母指外転筋：母指球の外側部にあり、母指を掌側へ外転させる。

短母指屈筋(浅頭)：母指、特に基節の屈曲。

臨床

円回内筋の圧迫(腕の運動)、または手根部の屈筋支帯の下を通る腕管の圧迫で侵され易い。後者は腕管症候群 (Carpal tunnel syndrome) といひ中年の女性に多く、手掌部の夜間疼痛、不快感、知覚異常、知覚低下、また母指球外側の筋萎縮などを見る。粘液水腫、リウマチ様変化などが誘因となりうる。

正中神経はまた手掌(母指球)を繰返して圧迫する人に侵されうる。

正中神経傷害部を叩打すると末梢部に放散痛を示す (Tinel徴候)。

